

令和7年度第2回 広島市景観審議会夜間景観検討部会 における主な意見

1 基本目標に関する意見

- ・ 前段は一般的な夜景の話をしているのに、後段は夜間景観の話になっているので、文章としてはわかりにくい。夜景と夜間景観など、言葉の定義をしっかりとした方が良い。〔真木委員〕
- ・ 「間近に見る」というフレーズは視野が限定され過ぎるため、景観誘導の際に敷地内の計画だけで検討されてしまうおそれがあり、支障が出そうな気がする。ヒューマンスケールを意識したという言葉の方が適切なのではないのか。〔吉田委員〕
- ・ 夜間景観の形成は市民にとっても重要な取組であるため、おもてなし感の印象が強い目標のフレーズは見直した方が良い。〔高田委員〕
- ・ 「にぎわい・おもてなし」という言葉は、他の3つの特性に比べるとレベルが違う話と思う。おもてなしは全体を取り組んだ先にあるものなので、全体に掛けてもよいのではないか。〔吉田委員〕
- ・ 現行景観計画の基本方針、「にぎわい・おもてなし」の言葉について、タイミングがあるのであれば修正した方がよいのではないのか。〔真木委員〕

2 基本方針に関する意見

- ・ 目標や方針などは、景観計画の理念的なところから考えることも必要であるが、現実にかかるプロジェクトを踏まえて下から考えることも必要である。〔吉原委員〕
- ・ 目標年次、スケジュールの要素が入っていない。言葉で書いていることと考えているイメージに齟齬が生じてはいけなため、目標年次を踏まえて可能性がある事例を示すなど、見た人が具体的にイメージできるようにすることが望ましい。〔吉原委員〕

3 施策展開の方向性に関する意見

- ・ 2つの取組、公共施設における整備と民間に対する景観誘導について、例えば、行政がリードしながら、民間を引っ張っていくなど、関係性がわかる表現があるとわかりやすい。〔角倉部会長〕
- ・ 夜間照明として書かれている文言と実際の照明技術に不一致が生じる可能性があるため、イメージとリアルの一致性が高いかどうかということについてもしっかりと検討しなければならない。〔真木委員〕

4 その他

- ・ 例えば、ドリミネーションなどの既存イベントについても、この部会で検討し、改善のアドバイスや提言みたいなものをやれたらいいと思う。〔真木委員〕